

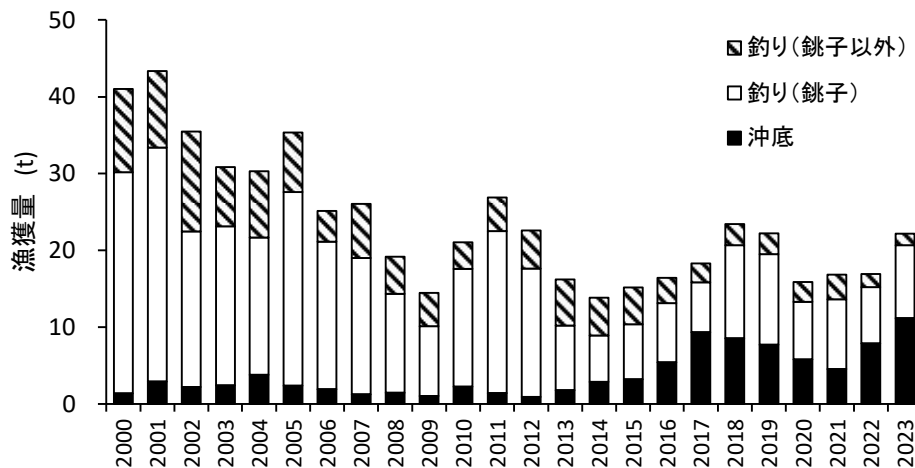
千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度漁獲動向

アカムツ



- ・ 漁獲のほとんどが銚子、外房、東京湾口における釣り漁業と銚子地区の沖合底びき網漁業によるものである。一部の地区では遊漁船でも利用されている。
- ・ 日本海側ではノドグロと呼ばれ、高級魚として取引されている。
- ・ 太平洋側での生態的知見はほとんどない。

漁獲量



県内主要港における漁業種類別漁獲量の経年変化（千葉県資料）

- ・ 千葉県では、銚子地区の沖合底びき網及び釣り、外房地区の釣り、東京湾口における釣りによって主に漁獲されている。
- ・ 主要港における漁獲量の推移をみると、2000年及び2001年は年間40tを超える漁獲があったが、その後は緩やかに減少し、2009年には15tとなった。2010年以降は15～30tの間で変動している。
- ・ このうち沖合底びき網漁業での漁獲量は、2000～2015年には年間5t未満であったが、2016年以降は5～10t前後で推移している。
- ・ 2023年の釣り漁業による漁獲量は、銚子地区が全体の8割以上を占めているが、操業隻数の参照ができないことからCPUEの算出ができない。

備考

- ・ アカムツ日本海系群（青森県～山口県）は2019年から国の資源評価対象種になり、日本海側における生態的知見が整理され、資源の水準と動向は沖合底びき網のCPUEを用いた資源密度指数を資源量指標値として判断されている（2019年は高位・横ばい）。